

協賛企業講演②

◆橈骨遠位端部骨折におけるルナキャスト新固定法 ～柔道整復師必見「カットレール」を用いた簡易除去法および固定装具の考案～

帝京大学 櫻井 庄二

【key words】ルナキャスト、全周キャスト固定、カットレール、簡易除去法

【Abstract】

我々柔道整復師の日々の臨床において橈骨遠位端部骨折は骨折の中でも来院頻度が高く、整復、固定、後療法と柔道整復師の技術を存分に発揮できる症例の一つである。この固定法には柔道整復師の多くはクラーメル金属副子をメインに用いた固定や、厚紙副子を併用したり、キャストシーネを用いたり様々である。整形外科における橈骨遠位端部骨折の固定には殆どがキャスト材を用いた全周ギプスを施す。キャスト材を用いたギプス固定は我々が用いるクラーメル金属副子固定に比べ固定力が強く、かさばらず、無論包帯の巻き直しも不要である。しかし、我々柔道整復師がキャスト材による全周ギプス固定を採用するには、患者への材料費負担(保険適応外のため)、何よりも除去に際しギプスカッターを必要とし、院の設備として準備しなければならない。ギプスカッターの導入には価格(高額)や使用頻度を考えると全ての柔道整復師が設備するには値しない。そこで、今回発表する「橈骨遠位端部骨折におけるルナキャスト新固定法」は全周ギプス固定の除去問題を解決すべく画期的な手法であり、骨折臨床に力を注ぐ柔道整復師に是非とも見て頂きたい。